

実質化された人・農地プラン

注: 本様式は参考ですので、地域の話合いの結果に応じて、積極的に記載する項目を追加してください。

市町村名	対象地区名(地区内集落名)	作成年月日	直近の更新年月日
津奈木町	岩城地区 (竹中、染竹、浜崎、桜戸、町中、新川、古川、大泊集落)	令和4年2月10日	—

1 対象地区の現状

①地区内の耕地面積	30.64ha
②アンケート調査等に回答した地区内の農地所有者又は耕作者の耕作面積の合計	28.72ha
③地区内における70歳以上の農業者の耕作面積の合計	18.65ha
i うち後継者未定の農業者の耕作面積の合計	5.24ha
ii うち後継者について不明の農業者の耕作面積の合計	5.32ha
④地区内において今後中心経営体が引き受ける意向のある耕作面積の合計	
(備考)	

注1: ③の「〇才以上」には、地域の実情に応じて、5～10年後の農地利用を議論する上で適切な年齢を記載します。
注2: ④の面積は、下記の「(参考)中心経営体」の「今後の農地の引受けの意向」欄の「経営面積」の合計から「現状」欄の「経営面積」の合計を差し引いた面積を記載します。
注3: アンケート等により、農地中間管理機構の活用や基盤整備の実施、作物生産や鳥獣被害防止対策、災害対策等に関する意向を把握した場合には、備考欄に地区の現状に関するデータとして記載してください。
注4: プランには、話合いに活用した地図を添付してください。

2 対象地区の課題

岩城地区の中心部の農地は住宅街に隣接しており、平坦地で水稻栽培が多いが農業所得が低く、兼業農家が多い。また、法面、水路、農道等の管理に対する負担が大きい。大泊地区については山際の傾斜地を利用した果樹栽培が多いが、車の入れない農地も多く作業効率が悪い。そして、担い手が確保できていない農業者も多く、地域でのコミュニケーションも希薄化していることにより、個人単位での兼業農家の負担が増加している。

注: 「課題」欄には、「現状」を基に話合いを通じて提示された課題を記載してください。

3 対象地区内における中心経営体への農地の集約化に関する方針

岩城地区は住宅街の中にある農地も多いことから、耕作放棄地が増えると景観にも大きく影響する。未整備農地については、ある程度の農地をまとめるなど活用できるよう整備を検討し、中心経営体、入作を希望する認定農業者や新規就農者の受け入れを促進していく。

水稻だけでは農業所得が低いため、新たな高収益作物の導入を検討しながら、新規就農者や他地域からの入作を希望する者の受け入れを促進していく。

大泊地区については、作業効率化を考えた農道等の基盤整備やある程度農地をまとめるなど活用できるよう整備を検討し、中心経営体、入作を希望する認定農業者や新規就農者の受け入れを促進していく。

農業用機械の共同利用や地区全体で協力しての農地管理を検討することで作業の効率化を図る。併せて自治活動も行うことで、地域コミュニティの活性化も図る。

注1: 中心経営体への農地の集約化に関する将来方針は、対象地区を原則として集落ごとに細分化して作成することを想定していますが、その「集落」の範囲は、地域の実情に応じて柔軟に設定してください。
注2: 「中心経営体」には、認定農業者、認定新規就農者、経営所得安定対策の対象となる法人化や農地の利用集積を行うことが確実と市町村が判断する集落営農及び市町村の基本構想に示す目標とする所得水準を達成している経営体等が位置付けられます。